



2012.5.16 35

JA 静岡厚生連清水厚生病院 医療協力部門

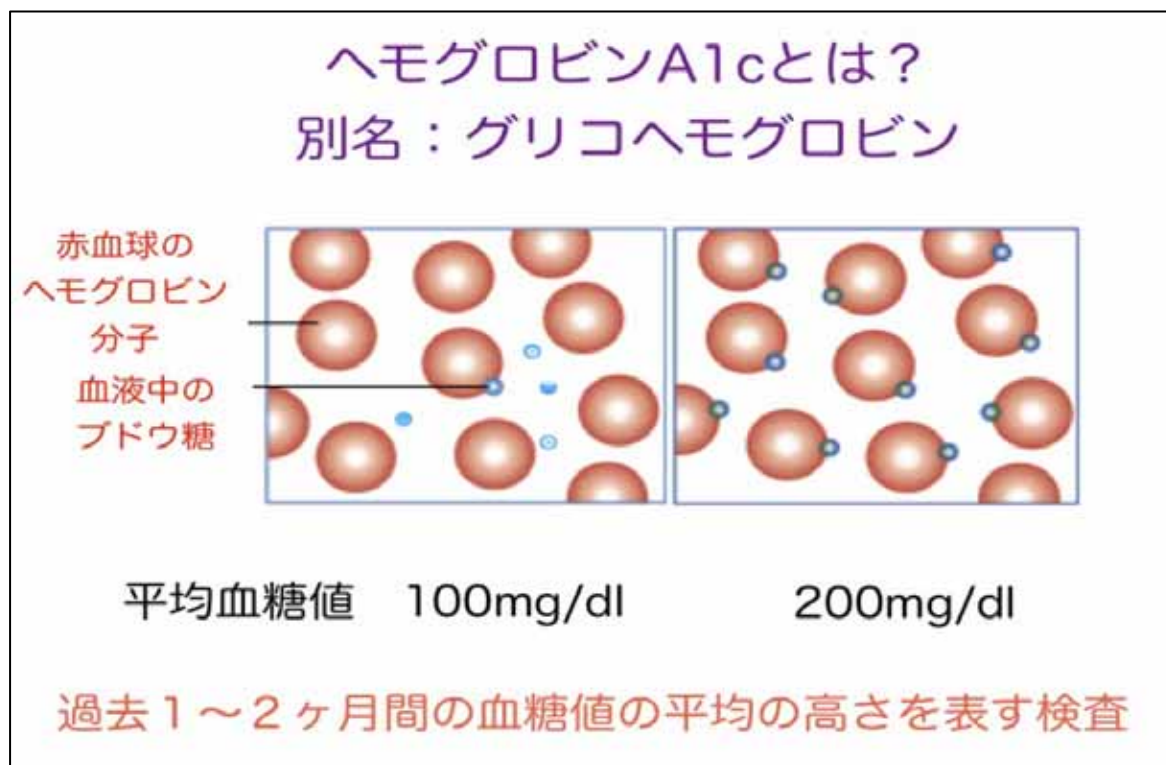
## ~ HbA1c について ~

### HbA1c とは

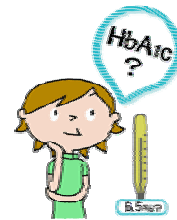
HbA1c とはヘモグロビン・エーワンシーと読み、糖尿病患者の治療コントロールの良否判定の指標です。正しくは「グリコヘモグロビン(糖化ヘモグロビン)」といいます。

赤血球のヘモグロビンにブドウ糖がくっついたものです。

通常、赤血球の寿命は 120 日およそ 4 ヶ月とされていますが、その間に血管の中をまわっていきます。その時に、ヘモグロビンは血液中の余分なブドウ糖と次々に結合していきます。高血糖状態が続くとさらに結合していきます。こうして HbA1c が作られます。つまり HbA1c の値が高ければ高いほど、たくさんのブドウ糖が余分に血液中にあったという意味を示します。



## ブドウ糖を測っている血糖値とHbA1cはどう違う？



### 血糖値は

「一般にブドウ糖濃度の値を示すので、食事や運動、ストレスにより短時間で急激に変動します。血糖値は食事により上昇しますが、体内では一定の値を超えるとすい臓からインスリンが分泌され血糖を下げる働きします。インスリンが不足すると血糖値が上がってしまいます。そのため血糖値の測定は糖尿病を知る上で、大切な検査です。」

### HbA1c は

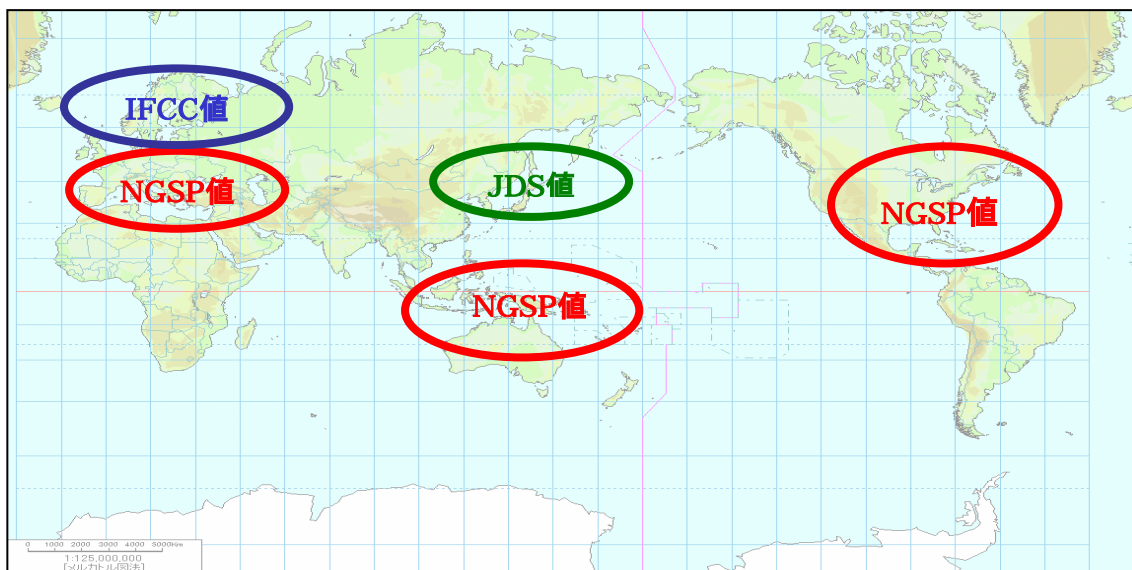
「過去1～2ヶ月間の平均血糖値を知ることが出来ます。そのため、検査時にたまたま、血糖値が低く、見逃してしまいがちな初期の糖尿病も発見しやすくなります。」

また、この検査は食事の影響も殆ど無く、長期血糖コントロールの目安にもなるため、すでに糖尿病にかかっている人が血糖値を上手にコントロールしているかどうかを判定する際にも有用です。」

この2つの検査は糖尿病を知る上で大変重要な検査です。

### 国際標準化に伴って

世界のHbA1c値の表示は、JDS値・NGSP値・IFCC値が使用されています。



HbA1cの国際標準化に伴い、日本においても平成24年4月1日よりHbA1cの表記の方法、基準値が変わりました。

これまでのHbA1cを「HbA1c (JDS)」として、新しいHbA1c値を「HbA1c(NGSP)」として表記します。院内の検査においては両方を併記し、検診に限り現在もJDS値を使用しています。

基準値については「JDS値 4.3～5.8(%)」「NGSP値 4.6～6.2(%)」となり、これまでのものよりおよそ0.4%高値になっています。

基準値が変わって認識するまでは前回値との比較などに注意が必要です。